

第2章 都市の現状と課題

2-1 都市の現状

2-2 市民意識

2-3 都市の課題

2-1 都市の現状

(1) 地域区分

本計画における居住誘導区域等の具体的な区域を検討するにあたり、人口や土地利用、都市機能、都市交通、経済活動、財政、都市施設、災害について都市の現状を把握し都市構造上の課題を分析します。

都市の現状把握においては、都市計画マスタープランにおける地域別構想の8つの地域区分と5つの拠点（都市拠点：苫小牧駅周辺、生活拠点：明德町、日新町、三光町、沼ノ端駅周辺）を考慮し進めることとします。なお、主に工業系の土地利用となる苫東地域については対象から除くこととします。



地域名	町名
西部西地域	字錦岡、錦西町、北星町、もえぎ町、宮前町、明德町、青雲町、のぞみ町、美原町、澄川町、ときわ町
西部東地域	字糸井、はまなす町、柏木町、川治町、宮の森町、日新町、しらかば町、桜坂町、永福町、小糸井町、豊川町、桜木町、日吉町、有明町、光洋町、有珠の沢町
中央部西地域	松風町、見山町、啓北町、花園町、青葉町、大成町、新富町、元町、山手町、北光町、白金町、弥生町、矢代町、浜町
中央部中地域	清水町、木場町、王子町、幸町、本町、大町、錦町、本幸町、寿町、栄町、高砂町、春日町、緑町、表町、若草町、旭町、末広町、汐見町2丁目、汐見町3丁目
中央部東地域	字高丘、泉町、美園町、住吉町、双葉町、音羽町、三光町、日の出町、新中野町、元中野町、港町、船見町、入船町、汐見町1丁目
東部西地域	新明町、あけぼの町、明野新町、新開町、柳町、一本松町、晴海町、真砂町
東部東地域	明野元町、拓勇西町、拓勇東町、北栄町、ウトナイ北、ウトナイ南、沼ノ端中央、東開町、字沼ノ端、字勇弘、字植苗
苫東地域	

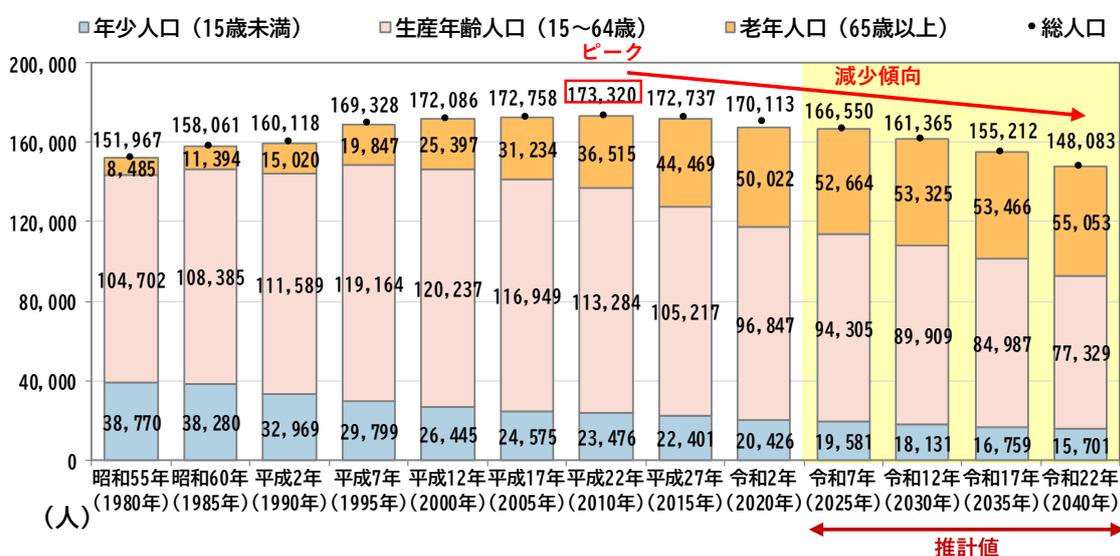
図 2-1 地域区分

(2) 人口

1) 人口の推移

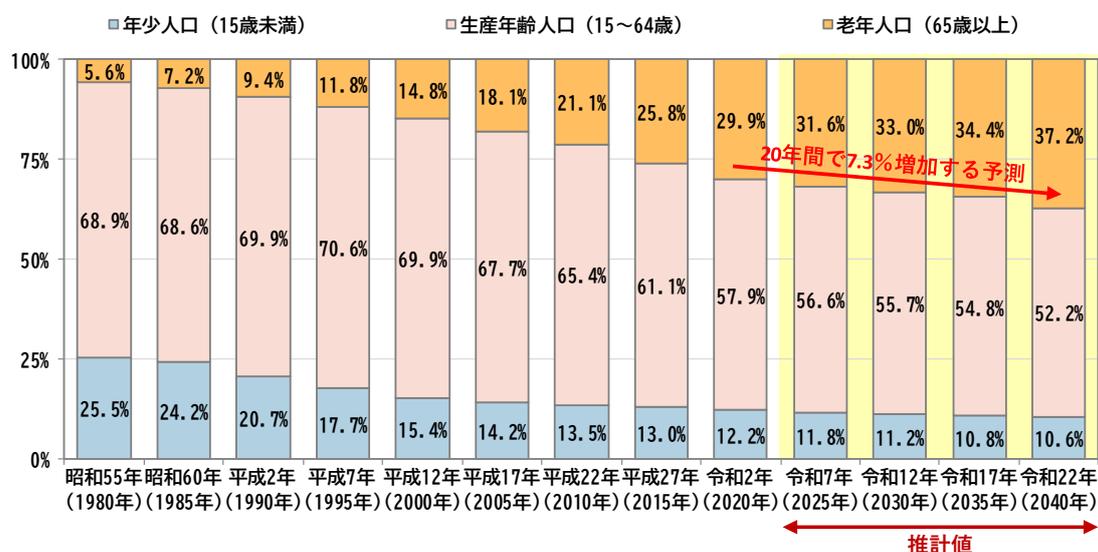
人口の推移についてみると、平成22年（2010年）の173,320人をピークに減少傾向に転じ、令和22年（2040年）には148,083人になると推計されています。

年齢別の人口についてみると、少子高齢化が進行しており、高齢化率（65歳以上の人口割合）は令和2年（2020年）で29.9%となっています。高齢化率は今後も上昇を続け、令和22年（2040年）には37.2%と20年間で7.3%増加し更なる高齢化が進行するものと推計されています。



【出典】人口：国勢調査（総務省）、日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計、国立社会保障・人口問題研究所）※総人口には年齢不詳を含む

図 2-2 人口の推移



【出典】人口：国勢調査（総務省）、日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計、国立社会保障・人口問題研究所）

図 2-3 年齢3区分別人口割合の推移

2) 人口密度

人口密度についてみると、平成 27 年（2015 年）時点では、住居系用途地域*内においておおむね 40 人/ha 以上（人口 40 人以上の 100m メッシュ）になっていますが、令和 22 年（2040 年）推計では、西部西・西部東地域の双葉三条通沿線地域などで市街化区域*の設定基準（都市計画法*施行規則 8 条）とされている 40 人/ha を下回る地域が出てくると予測されています。

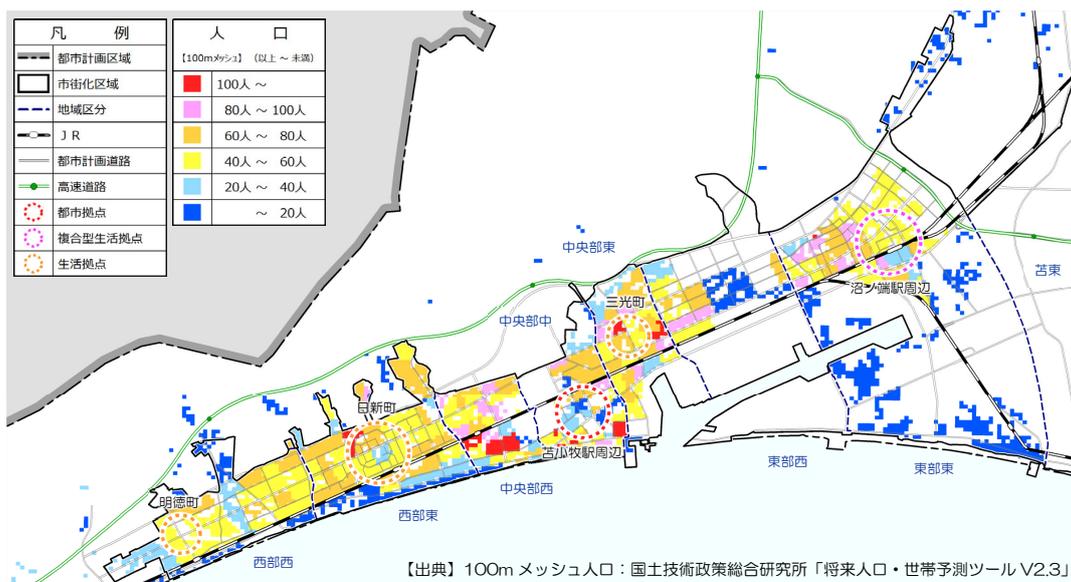


図 2-4 平成 27 年 人口分布（人口総数）

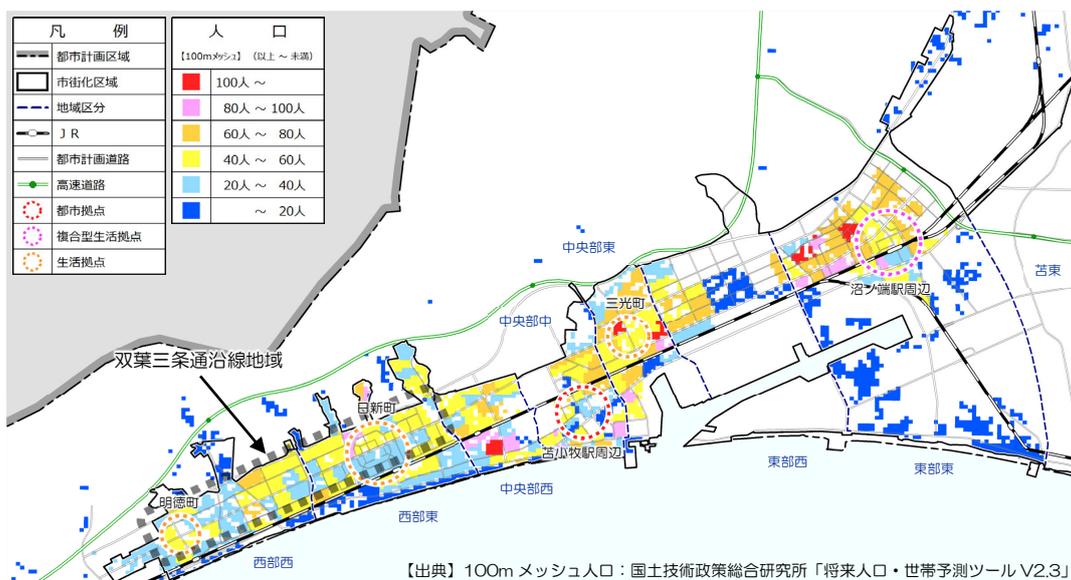


図 2-5 令和 22 年 推計人口分布（人口総数）

3) 高齢化率

高齢化率についてみると、平成27年（2015年）時点では中央部西地域が最も高く、次いで西部東地域、西部西地域が高くなっています。また、令和22年（2040年）の高齢化率（推計）では、全地域で増加する見通しになっており、特に東側の地域（中央部東、東部西、東部東）で大きく増加すると予測されています。

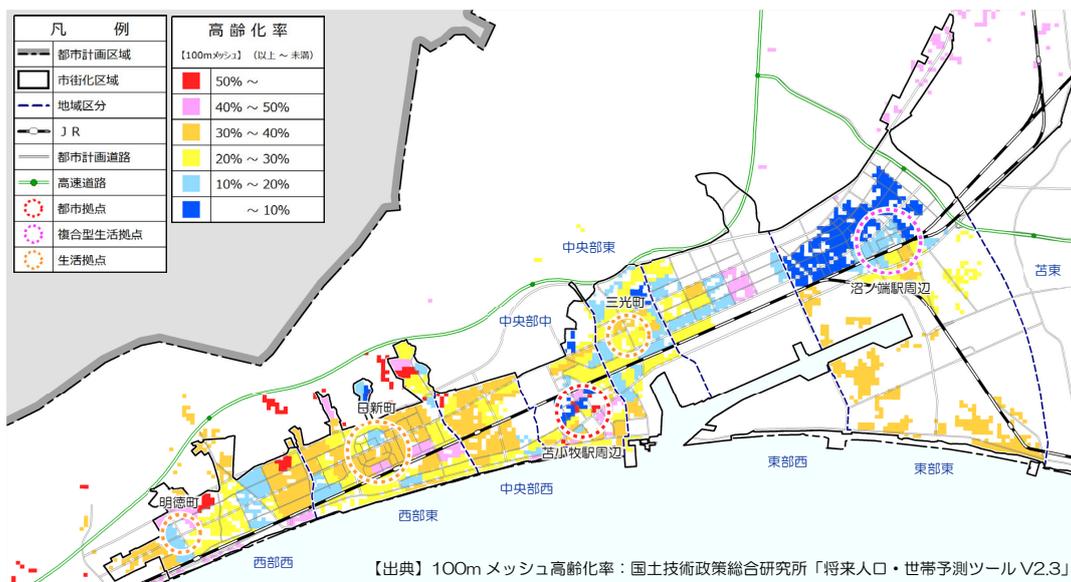


図 2-6 平成 27 年 高齢化率

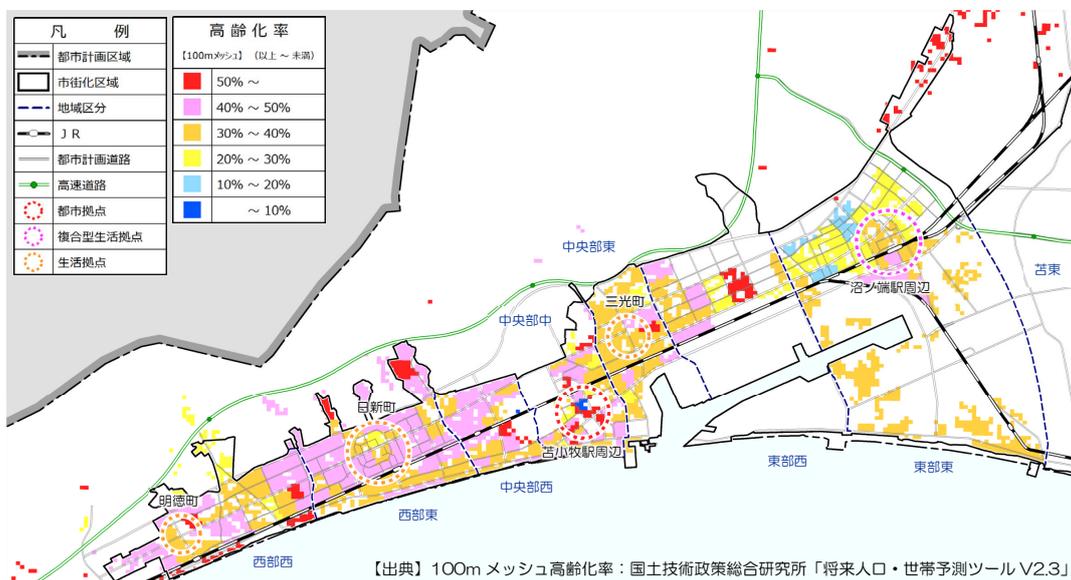


図 2-7 令和 22 年 高齢化率

想定される 問題点 『人口』

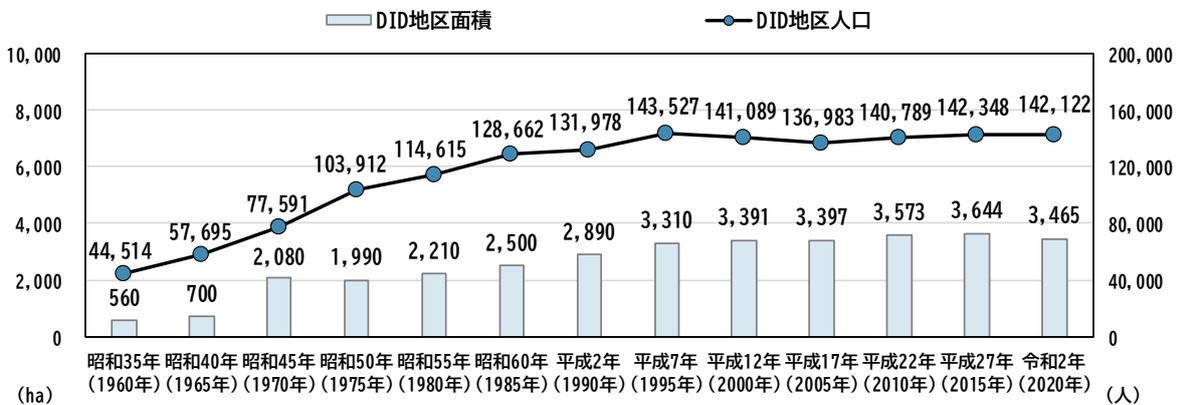
- 生活サービス施設や公共交通の維持が困難
- 公共サービスのコスト増大
- 地域産業、コミュニティを支える人材不足
- 賑わいの低下

(3) 土地利用

1) 人口集中地区 (DID 地区)

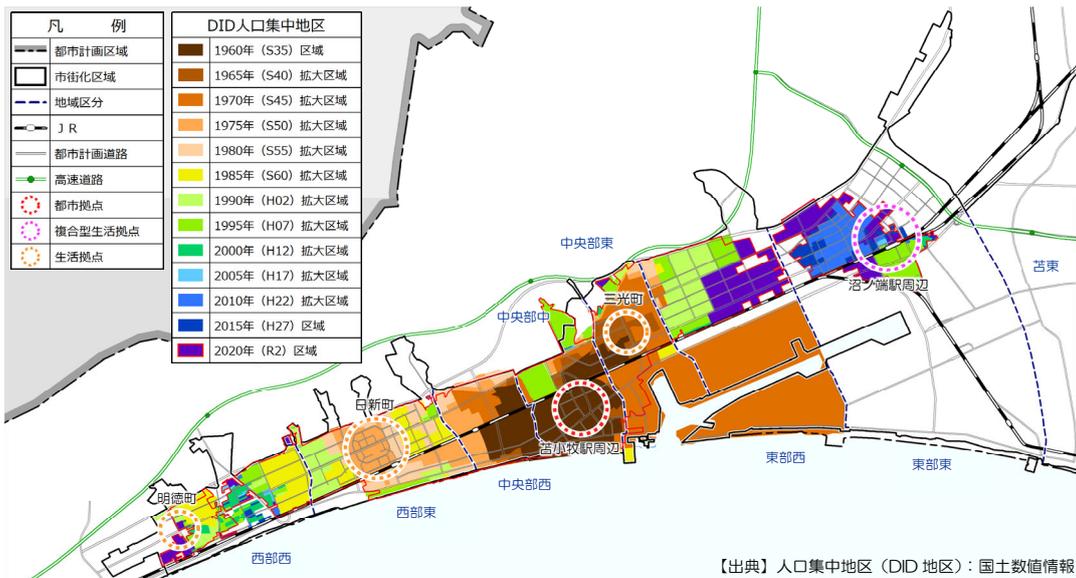
人口集中地区*についてみると、昭和35年(1960年)の560ha、44,514人から令和2年(2020年)には3,465ha、142,122人に増加しています。

人口集中地区の広がり方をみると、昭和35年(1960年)の苫小牧駅を中心とした区域から、その後苫小牧港、苫小牧西部、苫小牧東部へ拡大し、平成27年(2015年)には土地区画整理事業*(沼ノ端鉄北、平成20年事業完了)の区域である拓勇西町・拓勇東町周辺を加えて拡大しています。また、令和2年(2020年)には苫小牧西部の錦西町・宮前町周辺、苫小牧東部の新開町・柳町・あけぼの町、東開町周辺が新たに設定されています。



【出典】人口集中地区 (DID 地区) 面積・人口：国土数値情報

図 2-8 人口集中地区 (DID 地区) 面積・人口の推移



【出典】人口集中地区 (DID 地区)：国土数値情報

図 2-9 人口集中地区 (DID 地区)

2) 低未利用地

低未利用地*の状況を見ると、市内全域に分布していますが、西部西地域や東部東地域で多くなっています。また、拠点内にも低未利用地は多く見られ、特に明徳町や沼ノ端駅周辺で多くなっています。



図 2-10 低未利用地分布

3) 空き家

空き家の状況についてみると、旧市街地となる西部地域や中央部地域に多く分布しており、東部地域では比較的少なくなっています。また、苫小牧駅周辺や日新町、三光町などの生活拠点周辺においても空き家は多く存在しています。

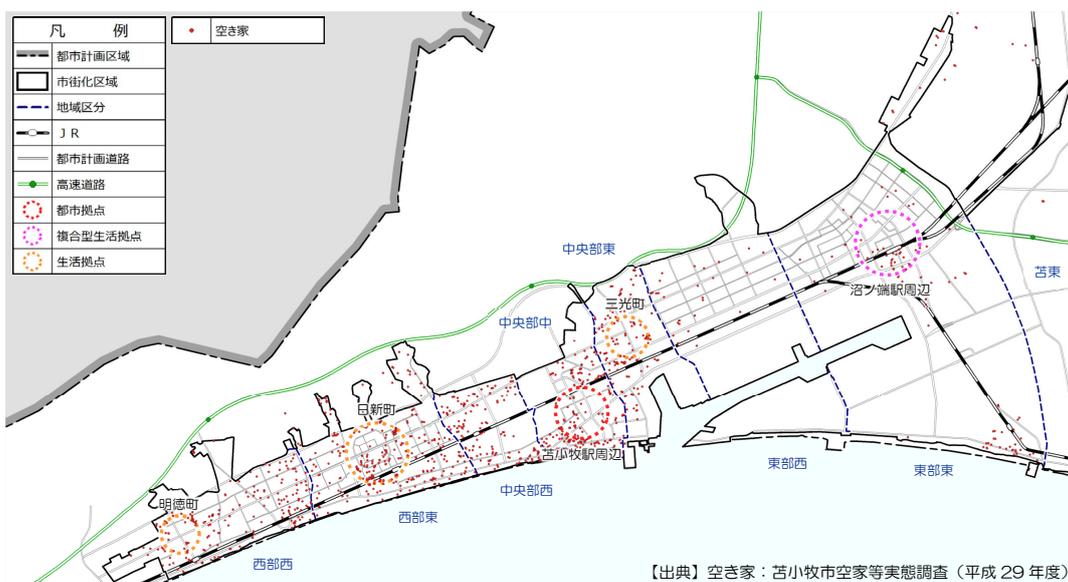


図 2-11 空き家分布

4) 老朽建築物

老朽建築物についてみると、旧市街地を中心に広く分布しており、西部地域や中央部地域で多くなっています。

また、老朽建築物の棟数割合をみると、苫小牧駅周辺や日新町、三光町などの旧市街地の拠点において老朽建物割合が高くなっています。



図 2-12 老朽建築物分布

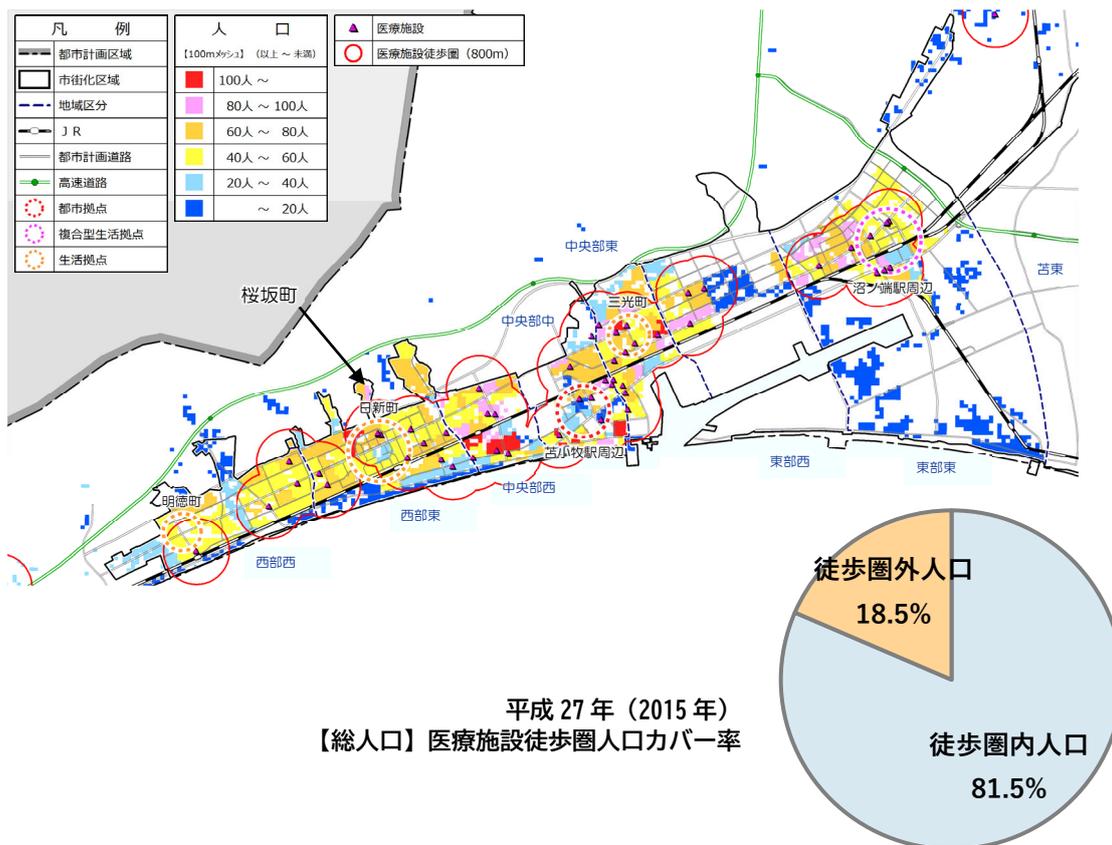
想定される 問題点 『土地利用』

- 都市のスポンジ化*、低密度化*が一斉に進行
- まちの生活利便性や魅力の低下
- 都市のスポンジ化等による更なる人口減少の悪循環
- まちなかの空洞化*、景観悪化

(4) 都市機能

1) 医療機能

医療施設（病院、診療所）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径800mの範囲は、桜坂町を除き、人口密度が比較的高い地域の大半をカバーしています。また、徒歩圏の人口カバー率は約82%となっています。



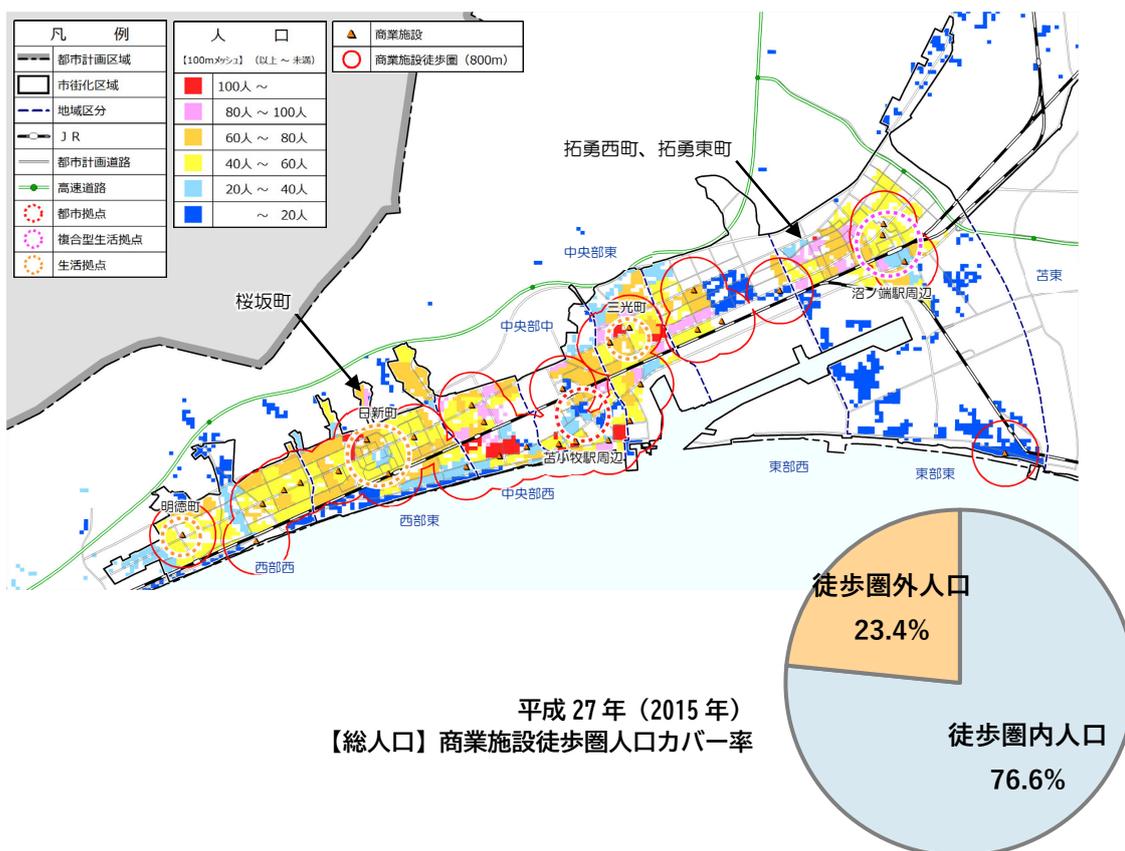
【出典】100mメッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2.3」

医療施設：iタウンページ（令和2年9月時点）。診療科目に内科・外科・整形外科・小児科を有する病院・診療所。

図 2-13 医療施設徒歩圏

2) 商業機能

商業施設（生鮮食品を扱うデパート、スーパー）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、桜坂町、拓勇西町、拓勇東町を除き、人口密度が比較的高い地域の大半をカバーしています。また、徒歩圏の人口カバー率は約 77% となっています。



【出典】100mメッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2.3」
商業施設：iタウンページ（令和 2 年 9 月時点）

図 2-14 商業施設徒歩圏

3) 福祉機能

福祉施設（通所系・訪問系施設、小規模多機能施設、グループホーム）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、住居系用途地域内をおおむねカバーしています。また、徒歩圏の老年人口カバー率は約 94% となっています。

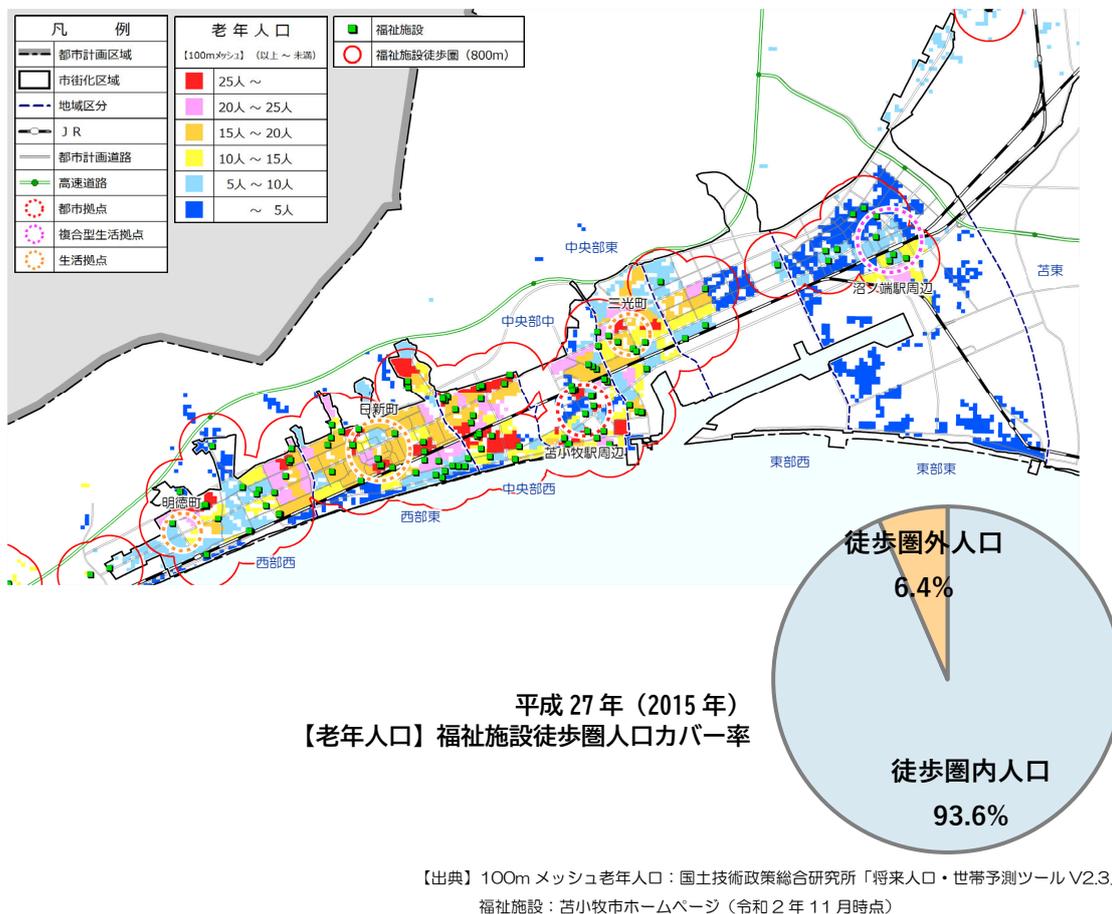
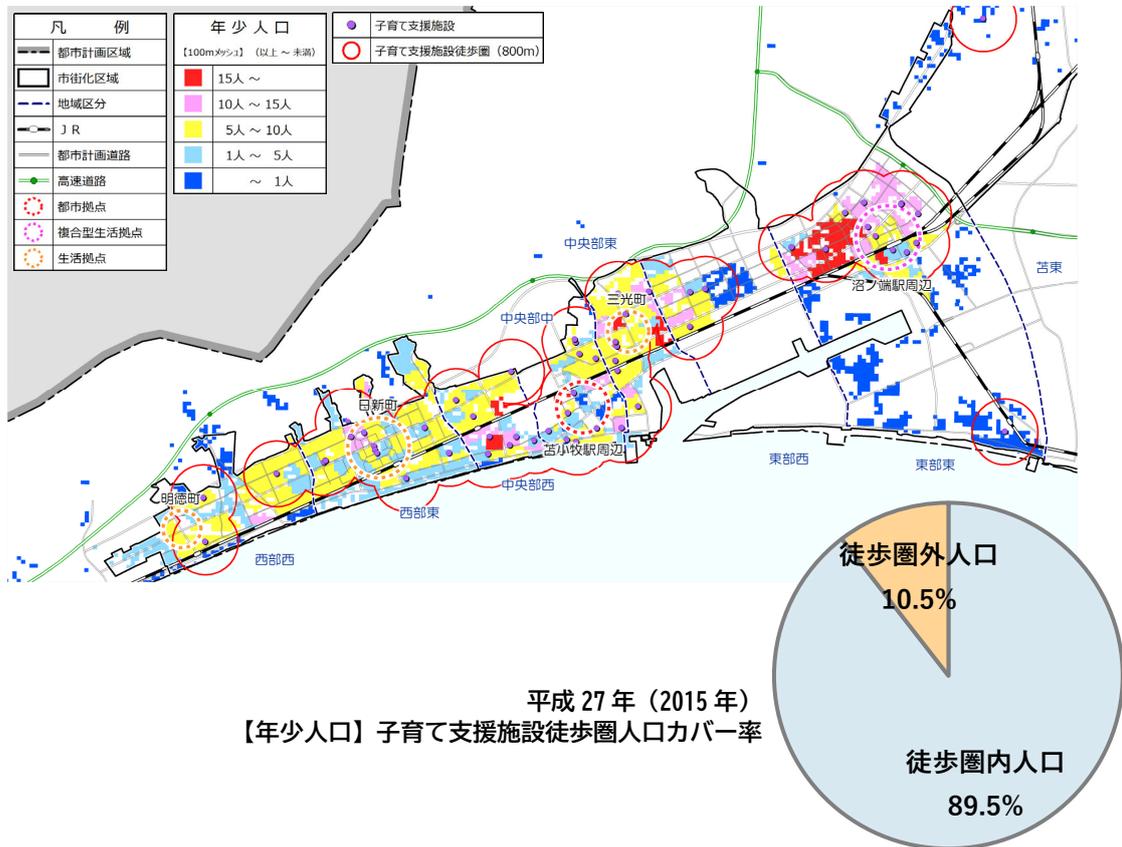


図 2-15 福祉施設徒歩圏

4) 子育て機能

子育て支援施設（幼稚園、認可保育所等）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、住居系用途地域内をおおむねカバーしています。また、徒歩圏の年少人口カバー率は約 90%となっています。

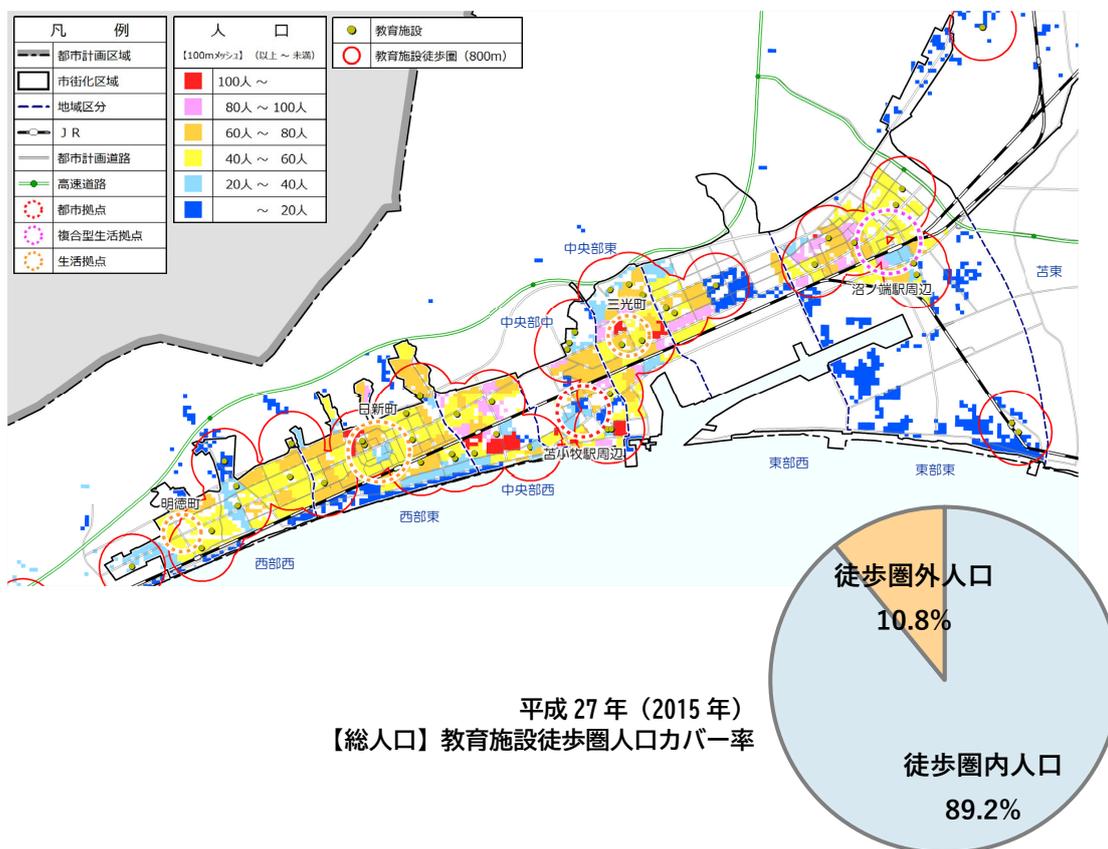


【出典】100mメッシュ年少人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2.3」
子育て支援施設：苫小牧市ホームページ（令和2年11月時点）

図 2-16 子育て支援施設徒歩圏

5) 教育機能

教育施設（小学校、中学校、高校、大学）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、住居系用途地域内をおおむねカバーしています。また、徒歩圏の人口カバー率は約 89%となっています。

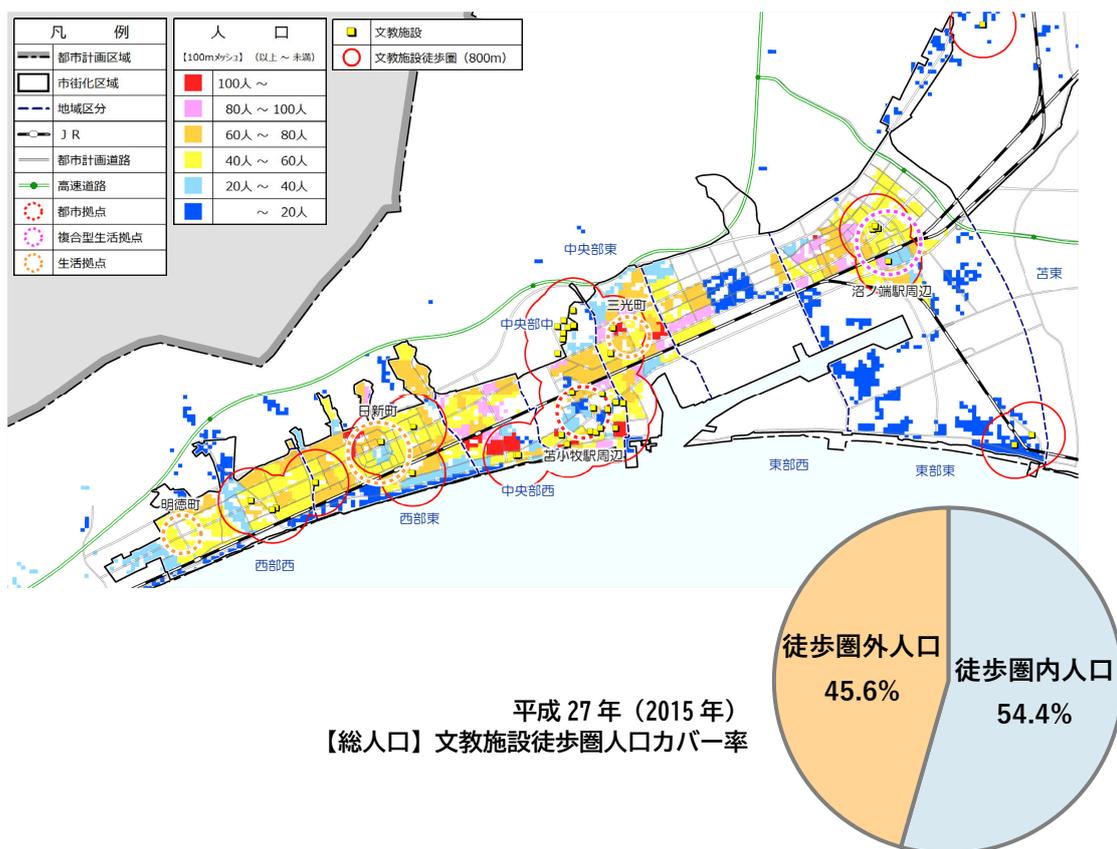


【出典】100mメッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2.3」
教育施設：北海道学校一覧（北海道教育委員会、令和3年5月1日現在）

図 2-17 教育施設徒歩圏

6) 文教機能

文教施設（図書館、博物館、コミュニティセンター、スポーツ施設）は、明德町周辺を除いた苫小牧駅周辺、沼ノ端駅周辺、日新町周辺、三光町周辺の拠点周辺を中心に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、住居系用途地域内の半分程度がカバーされている状況です。徒歩圏の人口カバー率は約 54% となっています。

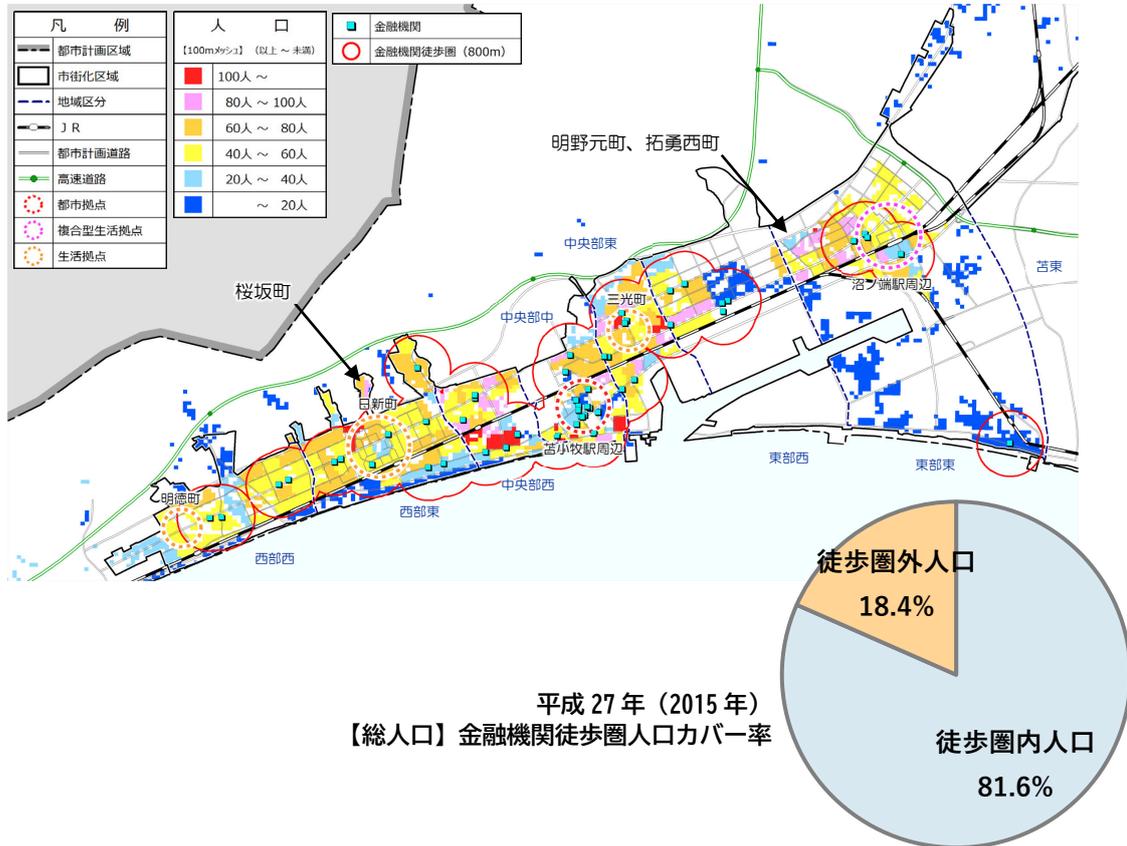


【出典】100mメッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2.3」
文教施設：苫小牧市ホームページ（令和3年9月時点）

図 2-18 文教施設徒歩圏

7) 金融機能

金融機関（銀行、郵貯、信金）は、市内各地に立地しており、一般的な徒歩圏である施設を中心とした半径 800m の範囲は、桜坂町、明野元町、拓勇西町を除き、人口密度が比較の高い地域の大半をカバーしています。また、徒歩圏の人口カバー率は約 82% となっています。



【出典】100m メッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2.3」
金融機関：iタウンページ（令和 3 年 9 月時点）

図 2-19 金融機関徒歩圏

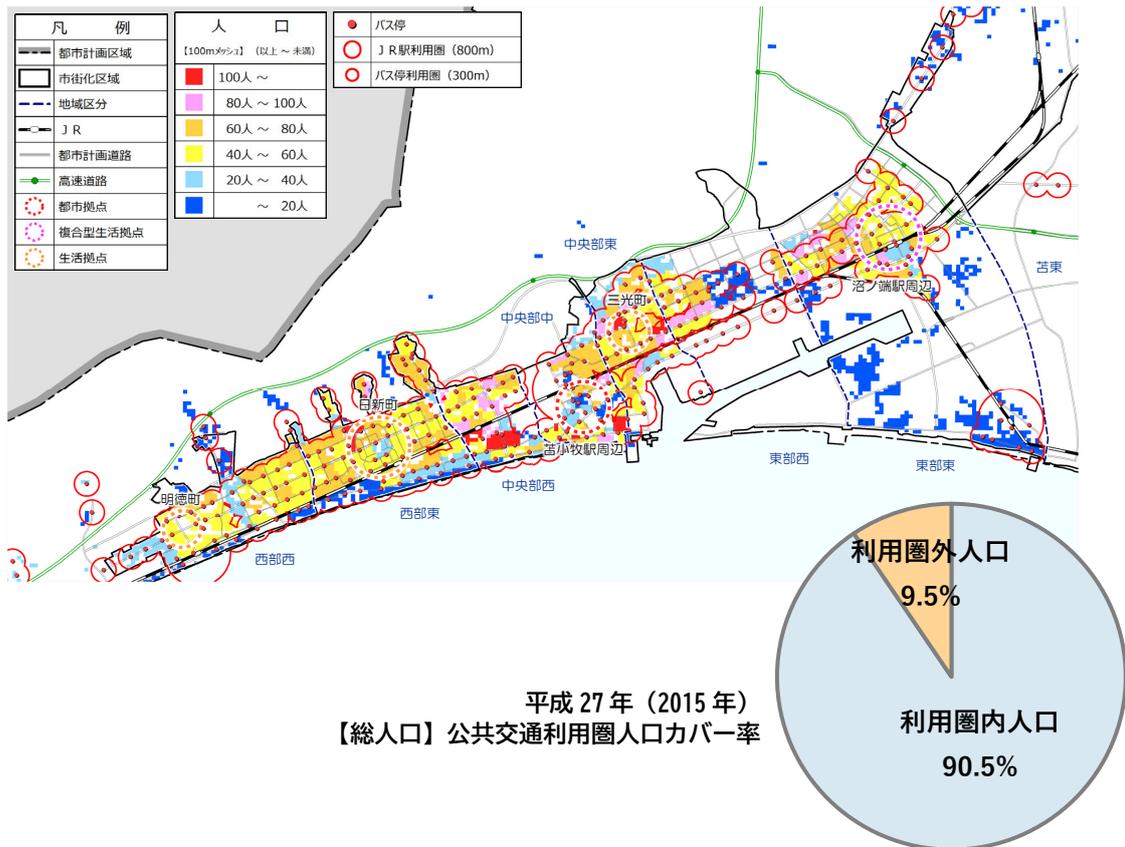
想定される 問題点 『都市機能』

- 人口密度低下による生活サービス施設の撤退
- 施設に徒歩でアクセスできない地域の増大
- 厳しい財政状況下における公共施設等の維持

(5) 都市交通

1) 公共交通

公共交通（JR、バス）についてみると、JR 駅を中心とした半径 800m 及びバス停を中心とした半径 300m の範囲は、住居系用途地域内をおおむねカバーしています。また、徒歩圏の人口カバー率は約 91% となっています。



【出典】100m メッシュ人口：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2.3」
バス停：苫小牧市資料（令和 2 年 10 月時点）

図 2-20 公共交通利用圏

2) 公共交通の利用動向

市内路線バスの年間輸送人員をみると、減少傾向となっており、平成19年(2007年)の約401万人/年から令和2年(2020年)には約202万人/年と約199万人/年の減少となっています。また、JR 苫小牧駅の一日あたり乗車人員をみると、平成19年(2007年)からほぼ横ばいで推移していますが、令和2年(2020年)には約2,500人/日と減少しています。

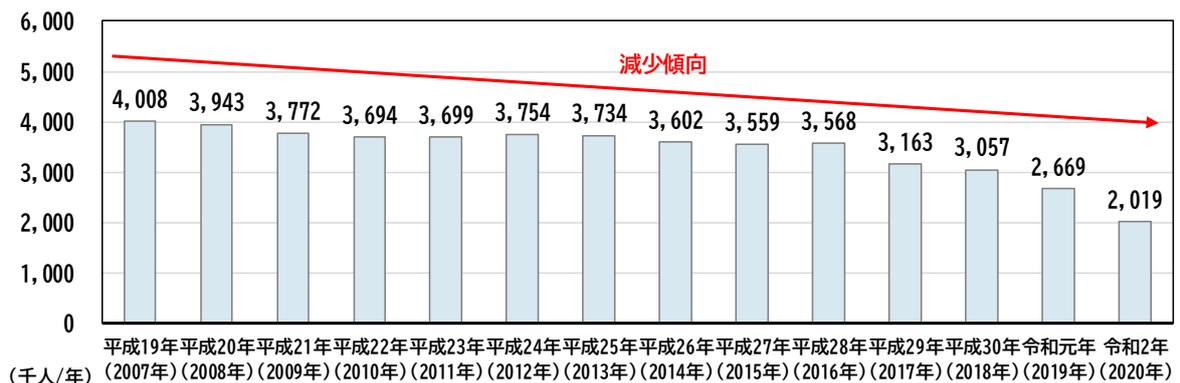


図 2-21 市内路線バスの年間輸送人員（貸切除く）

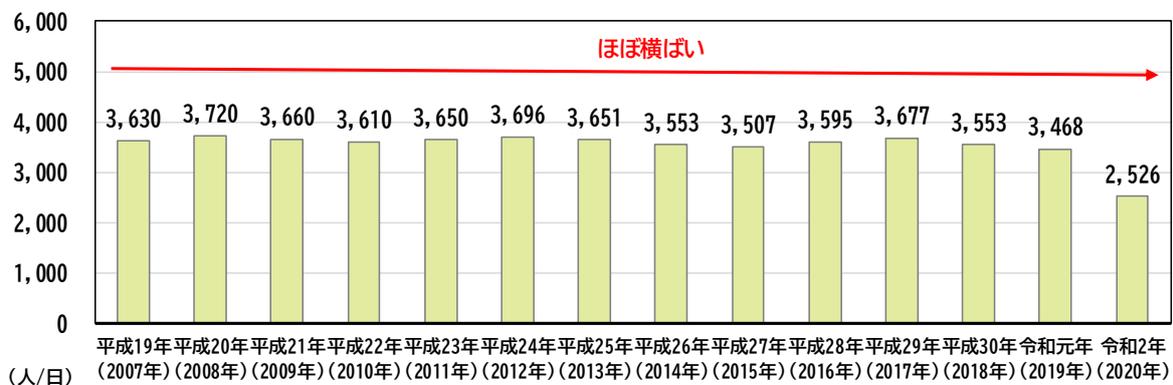


図 2-22 JR 苫小牧駅の一日あたり乗車人員

想定される 問題点 『都市交通』

- 不採算路線からの撤退などによる公共交通空白地域*の発生
- 自動車を運転できない学生や高齢者等の交通手段の消失

(6) 経済活動

1) 従業者数・事業所数

平成 28 年（2016 年）の従業者数についてみると、東部西地域や中央部中地域で多くなっています。

従業者数の増減をみると、平成 18 年（2006 年）の 80,317 人から平成 28 年（2016 年）には 73,617 人と約 8%の減少となっています。また、事業所数の増減をみると、平成 18 年（2006 年）の 8,349 事業所から平成 28 年（2016 年）には 7,210 事業所と約 14%の減少となっています。

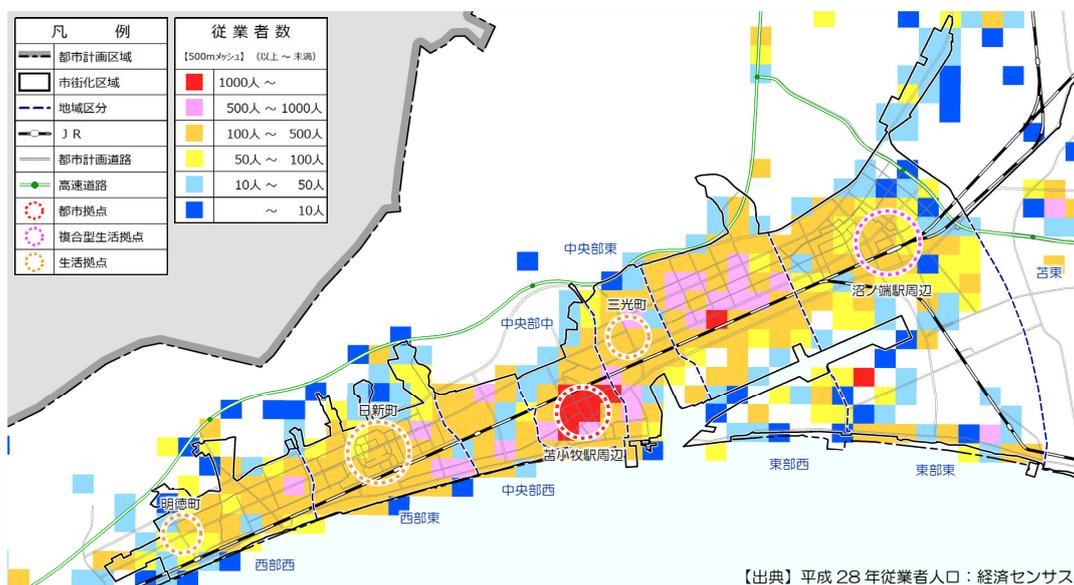


図 2-23 平成 28 年 従業者人口分布



【出典】：従業者数・事業所数：経済センサス（平成 28 年）、事業所・企業統計調査（平成 18 年）

図 2-24 従業者数と事業所数

2) 地価の動向

平成23年(2011年)から令和3年(2021年)の地価の動向をみると、住宅地・商業地ともに下落傾向となっており、住宅地平均では21,400円/㎡から18,200円/㎡と3,200円/㎡下落(下落率約15%)、商業地平均では43,000円/㎡から30,000円/㎡と13,000円/㎡下落(下落率約30%)という状況です。

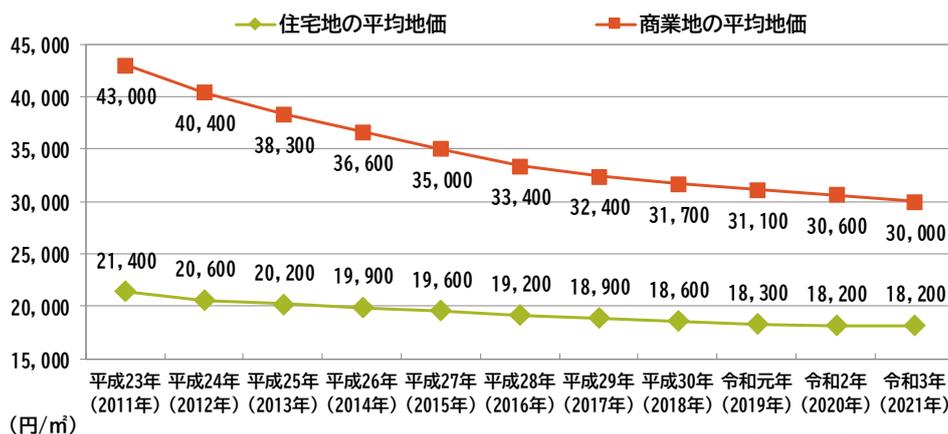


図 2-25 地価の動向



図 2-26 地価変動

想定される 問題点 『経済活動』

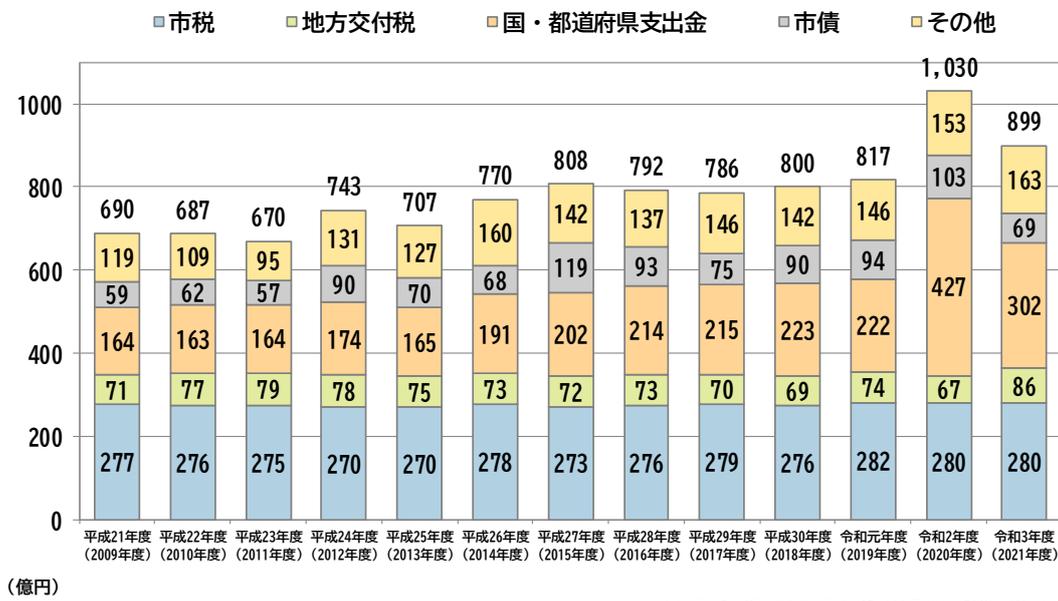
- 雇用の場の減少
- 若者世代の市外流出
- 固定資産税の減少
- 土地需要低下による空き地・空き家の増加
- まちの魅力、賑わいの低下

(7) 財政

1) 財政の動向

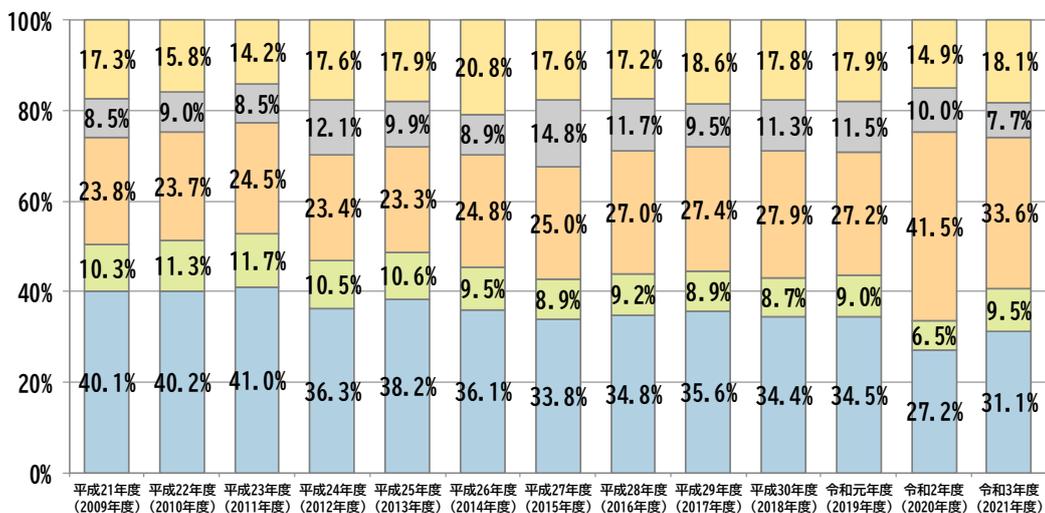
一般会計の歳入・歳出の推移をみると、増加傾向となっており、令和3年度（2021年度）の歳入は約899億円、歳出は約877億円となっています。

一般会計の歳入・歳出の割合をみると、令和3年度（2021年度）の歳入の割合については、国・都道府県支出金が約34%と最も多く、次いで、市税が約31%となっています。また、令和3年度（2021年度）の歳出の割合については扶助費*が約33%と最も多く、次いで、その他が約21%となっています。



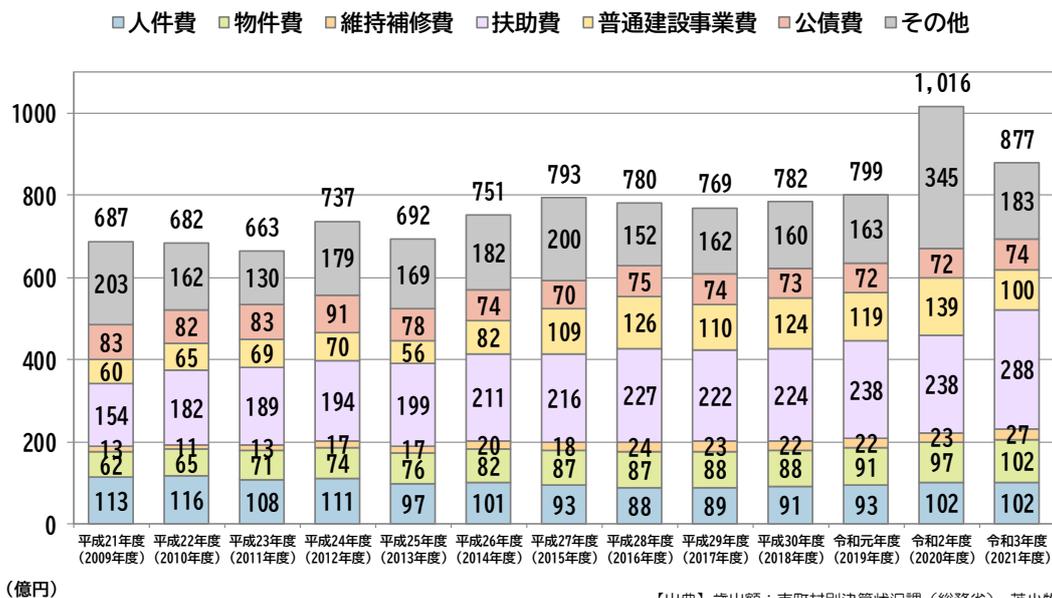
【出典】歳入額：市町村別決算状況調（総務省）、苫小牧市資料

図 2-27 歳入額



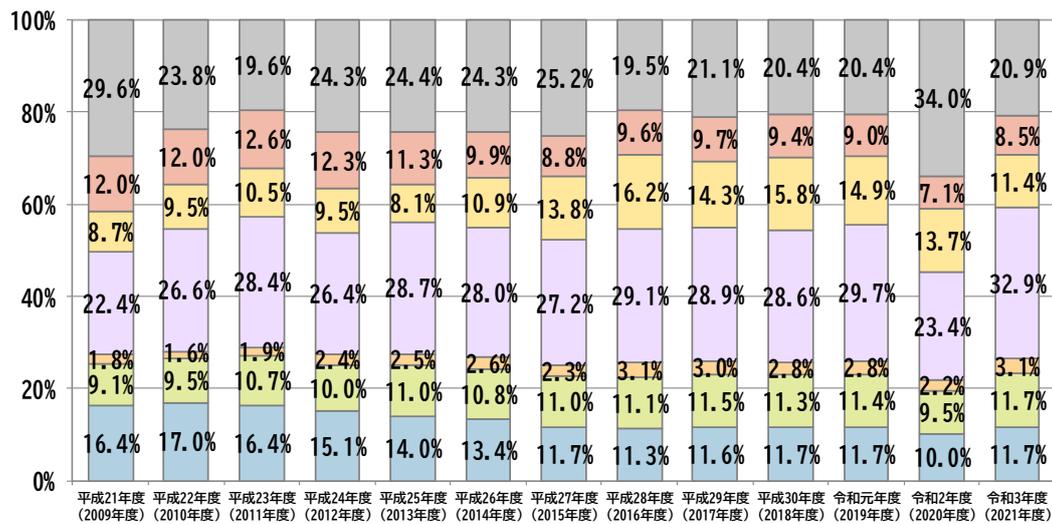
【出典】歳入額割合：市町村別決算状況調（総務省）、苫小牧市資料

図 2-28 歳入額割合



【出典】歳出額：市町村別決算状況調（総務省）、苫小牧市資料

図 2-29 歳出額



【出典】歳出額：市町村別決算状況調（総務省）、苫小牧市資料

図 2-30 歳出額割合

2) 公共施設等の維持管理費

公共施設（建築系施設）とインフラ系施設（道路、橋梁、上・下水道及び公園）については、今後30年間に改修や更新の必要な施設が数多く存在しています。

令和4年（2022年）から令和33年（2051年）までの期間で公共施設（建築系施設）を維持していくために必要な経費をみると、今後30年間で約2,910億円、年平均で約97億円の経費が推計されています。

また、インフラ系施設の令和4年（2022年）から令和33年（2051年）までの30年間の経費は約1,718億円、年平均で約57億円となっています。

表 2-1 公共施設等の将来更新経費の推計結果

（単位：百万円）

期間	区分	長寿命化対策等の効果を反映した経費額				年平均経費 見込み額
		維持管理・ 修繕	改修	更新等	合計	
【30年間】	建築系 施設	74,903	77,934	138,200	291,037	9,701
令和4年 (2022年) ～ 令和33年 (2051年)	インフラ系 施設	25,288	130,205	16,345	171,838	5,728
	合計	100,191	208,139	154,545	462,875	15,429

【出典】公共施設等の将来更新経費の推計結果：苫小牧市公共施設等総合管理計画【改訂版】

想定される 問題点 『財政』

- 市税の減少
- 医療・福祉等の扶助費の増加
- 公共施設等の老朽化により今後も多額の費用が必要

(8) 都市施設*

1) 都市計画道路整備状況

都市計画道路*の整備状況をみると、自動車専用道路及び特殊街路*については整備率が100%となっており、幹線街路*については整備率が66.7%となっています。東部東地域や苫東地域で幹線街路の未整備区間が多く見られます。



都市計画道路				
種別	本数	延長	整備済延長	整備率
自動車専用道路	1	14.67 km	14.67 km	100.0%
幹線街路	83	313.62 km	209.28 km	66.7%
特殊街路	24	23.59 km	23.59 km	100.0%
合計	108	351.88 km	247.54 km	70.3%

【出典】都市計画道路：都市計画道路現況調査（北海道、令和3年3月31日現在）

図 2-31 都市計画道路整備状況

想定される 問題点 『都市施設』

- 災害時や救急搬送時の円滑な移動に支障
- 都市計画決定による権利制限に伴う土地利用促進の阻害

(9) 災害

1) 土砂災害

土砂災害の危険性が高い土砂災害警戒区域*及び土砂災害特別警戒区域*は主に西部、中央部地域の山側に分布しています。



図 2-32 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

2) 洪水災害

苫小牧川の洪水については、西部東、中央部西、中央部中地域において浸水が想定されますが、浸水深は3.0m未満となっています。

勇払・安平川の洪水については、東部西～苫東地域の広い範囲で浸水が想定され、勇払や苫東地域で浸水深が3.0m以上となる箇所がみられます。



【出典】洪水浸水深：
 安平川・勇払川洪水浸水想定〔想定最大規模〕（平成30年7月20日 北海道公表）
 苫小牧川洪水浸水想定〔想定最大規模〕（平成31年3月22日 北海道公表）

図 2-33 洪水浸水深分布

3) 津波災害

令和3年度に北海道より公表された津波浸水想定区域*をみると、西部西・西部東地域においては双葉三条通を超えたエリアまで、中央部西、中央部中地域においては JR 線周辺まで、中央部東地域においては国道 36 号周辺まで、東部東地域においては JR 沼ノ端駅周辺まで浸水が想定されており、勇払においては浸水深が 5.0m 以上となる箇所も見られます。



図 2-34 津波浸水深分布

想定される 問題点 『災害』

- 高齢化の進行による避難の遅れ
- 建物の津波浸水等への未対応による被害の拡大

2-2 市民意識

(1) 概要

本計画の策定にあたり、市民の意見を今後のまちづくりに反映したものとするため、本計画と関連性の高い以下に示す3つの計画策定時における既往アンケート調査より市民のまちづくりに対する意識や施設の利用実態を把握しました。

既往アンケート調査の内容整理にあたっては、まちづくりの視点から人口、土地利用、都市機能、都市交通、経済活動、都市施設、災害の7つの視点で整理しました。

表 2-2 対象とした既往アンケートの概要

計画等名称	実施年	回収率
苫小牧市都市計画マスタープラン	平成 28 年度	回収数：1,125 票 回収率：37.5%
苫小牧市公共施設等総合管理計画	平成 27 年度	回収数：670 票 回収率：33.5%
苫小牧市地域公共交通計画	令和元年度	回収数：1,091 票 WEB:775 票、紙媒体：316 票

(2) 市民意識の整理

既往アンケート調査から人口、土地利用、都市機能、都市交通、経済活動、都市施設、災害に係る主な設問を抽出し、各分野における市民意識を整理しました。

第1章	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; text-align: center;">人口</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 市外から転居してきた人が多く、住み続けたい割合が高くなっています。 ● 年齢が高くなるにつれて、住み続けたい割合が高くなり、定住意向が強くなっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 定住意向が高くても、高齢化が進むと現状の施設配置では生活サービスの享受が困難</p> </div>	
第2章		
第3章		
第4章		<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">土地利用</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 「中心市街地に、にぎわいや活気がある」は不満が8割であり、『生活利便機能を集積した拠点』を定め、拠点に集中的に事業や取組みを行うことで利便性を向上させるとともに、拠点まで公共交通で市民の足を確保する意向が強くなっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 中心市街地に対する満足度が低い</p> </div>
第5章		<div style="background-color: #ff9900; color: white; padding: 5px; text-align: center;">都市機能</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口に対する公共施設の数にはスポーツ・レクリエーション施設や子育て支援施設が足りないという回答が多くなっています。 ● 公共施設維持のための取組みとしては、多機能化・複合化の推進、利用率の低い施設の見直しが高い割合となっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 厳しい財政状況下における公共施設等の維持</p> </div>
第6章		<div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">都市交通</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動の多くが自家用車である一方、路線バスに対して10代や70代以上では利用頻度が高い傾向となっています。 ● 公共交通を維持・活性化するための取組みとしては、「中心市街地や生活利便機能を集約した拠点を中心にその周辺と循環バスで結ぶ」の回答が最も多くなっています。地域別にみると「バスの便数を増やす」が中央部から遠くなるにつれて増加する傾向となっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 自動車を運転できない学生や高齢者等の交通手段の消失</p> </div>
第7章		<div style="background-color: #90ee90; color: white; padding: 5px; text-align: center;">経済活動</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光施設の充実による経済発展等への貢献は不満、港湾が雇用や経済を支えているは満足が多くなっています。 ● 「中心市街地活性化は市の最重要課題として取り組むべき」と「他の事業とのバランスを考えるべき」が二分し、地域特性が現れています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 まちなかにおける商業の更なる衰退</p> </div>
第8章		<div style="background-color: #00b050; color: white; padding: 5px; text-align: center;">都市施設</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 緑地・公園・スポーツ施設、車道部に対する評価は比較的高いですが、街並みの景観や歩行者・自転車道としての空間評価は低い状況となっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 まちなみ景観や歩行者・自転車道としての空間整備に対する満足度が低い</p> </div>
第9章		<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">災害</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然災害に強いまちが形成されているかについては、低い評価となっています。 <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p>⇒ 想定される問題点 高齢化の進行による避難の遅れや建物の津波浸水等への未対応による被害の拡大</p> </div>
第10章		
参考資料		

図 2-35 市民意識の整理

2-3 都市の課題

都市の現状把握及び市民意識の現状把握より、人口、土地利用、都市機能、都市交通、経済活動、財政、都市施設、災害の各分野別に想定される問題点を整理し、解決すべき課題を「人口減少・高齢化対応」、「賑わい交流」、「都市経営コスト」、「安全・安心」の4つの視点から抽出しました。

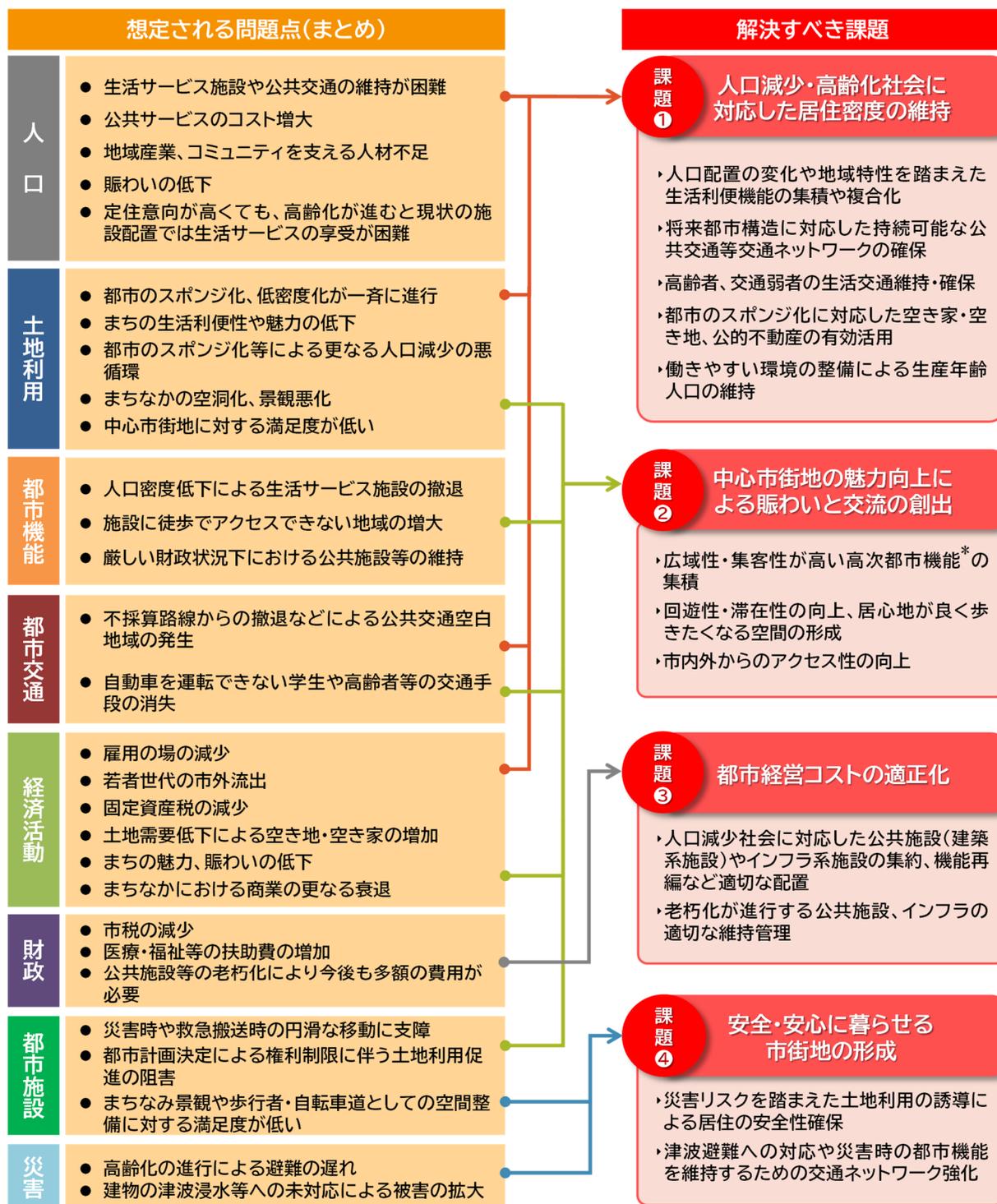


図 2-36 解決すべき課題

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

参考資料